

2023年11月19日 (第216号)
発行所 カトリック大阪高松大司教区 教区報西部版担当
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
WEB https://ostk.catholic.jp/

カトリック 大阪高松教区報 西部版

マザー・テレサの言葉
もし、わたしたちが互いに愛し合うなら、そして平和、喜び、主の現存を家々にもたらすなら、わたしたちは世の中のすべての悪に打ち勝つことができるのです。

新大司教区設立 〜みことばの実現を信じた聖母に倣って〜

小山 一 助祭

新設大司教区については大阪高松教区報「特別号」にすでに紹介されているが、旧教区事務局長として、設立の経過などについて別の視点から報告させて頂く。

特別号の諏訪名誉司教さまの記事にも少し触れられていたが、今回の新設合併は高松教区からも大阪大司教区からも意図したものではない。突然のことにより両教区共に驚き、目下も泥縄的に合併の事務作業に追われている。前田大司教さまも誤解が生じることがないようにと非常に気を遣って下さっているが、旧高松教区は財政や司祭数に行き詰まっていた他の教区に合併を求めたこととは一度もない。逆に、新たな高松司教の任命を願い祈り続けてきた。私たちが真剣に祈る時、神さまがその祈りを忘れるなどということはありえず、今回与えられた結果は私たちが願っていたものと違っていたとしても、そこに神さまの目は現わされているし必ず良い結果に導かれてゆく。諏訪司教さまの記事での結論「今、大阪高松教区がおもしろい！」と言われることを楽しみにできるのだろうか。期待を持って頑張りたい。

ただ、皆さまに、現在、旧高松教区事務局(宗教法法人カトリック高松司教区)がやろうとしていることについて御

了解をお願いしたい。上述のように、今、両教区は合併事務に連日追われているが、実は、この新設合併を文字通りに新設合併として行おうとすると、両教区で多額の費用と手間が必要となる。そこで事務手続きとしては、高松司教区が大阪大司教区に吸収合併される形をとるように高松教区として大阪教区に申し入れられている。この形式にすれば、事務作業が大きく軽減され、経費的な無駄も大幅に避けられるからだ。その代わり国内の事務書類には、大阪教区を存続法人として高松教区は消滅し、同時に、大阪教区が大阪高松大司教区と改名する

桜町教会で設立感謝ミサ

11月11日、大阪高松大司教区のもう一つのカテドラル桜町教会で、設立感謝ミサが行われた。ファブリス・リヴェ臨時代理大使、大阪から前田大司教、酒井輔佐司教と7人の司祭、四国から諏訪名誉司教と17人の司祭・助祭をして信徒約170人が、心をあわせてミサをささげた。



前田大司教の説教にて

10月9日設立式ミサ 諏訪司教の挨拶

福音宣教推進全国会議の1つの課題として、将来の教区の統廃合という問題が出ていました。いつそれが起こるかという期待といろいろな思いの中で、今日を迎えることができたことを感謝します。

教皇様の「新しくできる大阪高松教区はマリア様であって欲しい」という期待にすくなく納得します。この社会の中でマリアでありたいと思うときに、希望が湧いてきます。そして今たくさんの方の支えの中で教会

は歩んでいきます。信徒のみなさんのおかげで司祭たちも歩んでいます。感謝します。

四国の教会のことを思うと、ご存知のようにほとんどの県民が弘法大師の精神で生きています。そんな中でゼロからスタートした歴史なんです。ドミニコ会が百十何年もかけて教会を作り幼稚園を作り、そして戦後日本人がどこを向いて生きていったら良いのか分からないときに、オブレート会がそしてスペイン外国宣教会が、たくさんの援助と宣教師のたくさんの犠牲をもって四国の教会を築き上げてくれました。この場を借りて本当に感謝いたします。

時の印でしょう。ともに歩みなさいという世界的なシノドスの流れの中で、2つの教区が新しい1つの教区として、ともに協力し、支え祈り合ってマリアであるということを生きていきます。感謝します。若い時にこんな言葉がありました。「今、大阪教区がおもしろい」。これから「今、大阪高松教区がおもしろい」という、そんな新しい波と一緒に築いていったらいいなと思っています。多くの、特にアジアからの若者たちの力をいただきながら、これからおもしろい教区になっていきたいと思っています。本当に皆様ありがとうございました。

挨拶の後、諏訪司教は、御自身に贈られた3つの花束を、それぞれドミニコ会のサンミゲル神父、オブレート会のスティーブ神父、スペイン外国宣教会のイスマエル神父にお渡しし、長い間支えて下さったことに対する感謝を表された。



ということになる。今後、小教区の皆さまが銀行の通帳などを高松教区名義から大阪高松大司教区に変更することが必要になるが、その時の申請書類には「大阪教区に吸収合併」という記載があることをご了解願いたい。ちなみに、このことは最初から高松教区側が発案し提案したもので、決して大阪大司教区から示唆されたり要請されたものではないことも申し添えたい。このことは記録しておく必要があると考え、ここに記した。

福音宣教省の管轄下にある司教区が今回のような形(新設合併)で統合するのはこれまでにはない世界初例のことだ。教皇さまがなぜ前例の無いことを覚悟して決断されたのかいずれば明らかにされるだろうが、これまでのフランシスコ教皇さまの文章を振り返ると、現代世界の状況がキリスト者だけでなく全人類にとって放置できない状況に向

ているとの認識があるように感じられる。貧富の差の拡大、軍力による現状変更、森林の減少や異常気象など、人間が理性を過信し神を従に置いた結果が世界を危機に陥れつつあると。教皇さまにとって、今や「何もしない」という選択は難しく、時間的な無理や種々の困難は覚悟の上で今回のシノドスを呼びかけ(多くの真面目な人が困ったように、明らかに無理なスケジュールだった)、また、今回の教区統合を決断されたのではない

だろうか。フランシスコ教皇さまが、聖霊の導きを信じながらも震えながら、教会(私達)の回心と刷新を神に祈り乞われている姿が目に見えるようだ。

シノドスの精神は「ともに歩み、交わりの中で福音を知らせる」であり、教皇さまの祈りに応え、今後の教区統合への歩み、そして統合後の歩みも、人々の善意を信じ教会内外の人々とともに歩み交わりの中で、私たち自身と社会を福音化することを目指したい。神さまがこの回心の歩みを私たち大阪高松教区民に委ねて下さったことを恵みとして受け取り、み言葉の実現を信じた聖母に倣い、歩み始めたい。

はばたき

先日、ホイベルス神父様の随想集「人生の秋」を読んでいると、「老年がこんなに楽しいものとは思わなかった」という多くの人に出会ったとありました。実は私もそう思っていて、今のところ気ままな独り暮らしを楽しんでいます。でも少々やっかいな心も弱くなり、心に傷を負うことも多く、また逆に人を傷つけることもあり。しかし過ぎ去った過去について人々や自分を責め続けていると思いがけず頑なな心の壁が築かれてしまうことに気付かされます。私には自力で古い傷を忘れることが難しいのではないのでしょうか。パウロは「神はキリストによって世をご自分と和解させ人々の罪の責任を問うことがない」(2コリ5・19)と言われます。神は、神の名において私たちに古い傷を手放し別れを告げるようにと呼びかけておられるのだと思えます。

又、私たちは「先へ進む」時になっても生に執着することが多くあるようですが、それは決着のついていない人間関係の問題を残して、「謝る」ことが出来なかったせいなのかもしれません。私たちが傷つけた人々を赦し、また、私たちが傷つけた人々から赦してもらう時、「先へ進む」自由が生まれるように感じています。

「古い重荷は神の賜物。古びた心にこれで最後のみがきをかける。まことのふるさとへ行くために。」(ホイベルス神父さまの「最上のわざ」より。)

四国の各地区から 新大司教区設立ミサに参加して

十愛媛地区

10月9日のミサのために、諏訪司教が担当なさっている愛媛地区南予ブロックからは、宇和島教会信者6名が参加しました。

そのうちの2名は、2日

がかりでの参加になりました。諏訪司教様は、日曜日には八幡浜教会と宇和島教会の2教会で、2週ずつ午前と午後にて交代の時間でミサを行っておられます。8日は宇和島教会が午後ミサでしたから、そのミサ後に大阪に向けて出発されました。内2名は、バスで松山市駅まで行き、東予港にフェリー会社のシャトルバスで移動しました。20時にフェリーが出发し大阪南港に翌6時に到着。8時までフェリー内で朝食をとり、司教座聖堂のミサに向かいました。ミサの後の諏訪司教のお話の後、新幹線などを乗り継いで22時30分に宇和島に帰着しました。大阪までの道程は長いものでした。

が、祈りの旅とすれば、その長さは感謝になりました。大阪大司教の皆様方が、鄙びた四国の教会を巡礼においてになることをお待ちしております。」

南予ブロックから参加

見前長崎大司教さん以外は予想の顔ぶれでは全くありません。昔を振り返るのもいいのではないと思ひ、また、前田枢機卿さんにもあれから会ってないしと、バスに乗る。一番前の車椅子席。残念ながら四国と違い、玉造カトリックは広い。二階席からの眺めのように。これからは近くで会えるでしょう。一緒に行ってくれた家族に感謝します。江ノ口教会 宮本匡士

初めて訪れた大聖堂、日本中いろいろな聖堂を訪れた私でも驚きの聖堂内「最後の日のガラシャ夫人」の大壁画が迎えてくれました。そしてようこそ四国の皆さんと大阪教区の信者さんの大歓迎のムードの中でミサが始まりました。

ミサは日本語、英語、ベトナム語と多言語にて進行されました。これからの日本のカトリックのあるべき姿を感じられるミサでした。今では関西と四国は近く多くの人が往来しています。人の流れあることはとても良い事だと私は考えます。これからそれぞれの教区の教会がマイホームに帰ってきたかのような、国籍の壁なく大人も子ども男性も女性も楽しく安心して交わられるような教会となるのではとワクワクしています。

ご準備してくださった皆様ありがとうございます
阿南教会 池田幸

感動！新しい門出。
2023年10月9日、今、大阪高松大司教区の新しい門出。門出の舞台は、大阪カテドラル聖マリア大聖堂。大きい！広い！美しい！厳かに流れるパイプオルガンの響きと聖歌隊の歌声。門出にふさわしい大舞台です。新しい門出に集まったのは、大司教様、司教団、司祭団、そして千人を超える

堂へ



設立大勅書の掲示

二つ目は、福岡サン・スルピス大神学院で3年間勉強した時、在籍者から郡山前鹿兒島司教、高見前長崎大司教、故浜口大分司教、前田枢機卿が出ました。高

十高知地区
大阪に行った理由は二つあります。一つは、私が日本カトリック・ボランティア連絡協議会の会長を5年前から担当していることからです。その事務局も京都に代わり、共に大会の準備をしてきましたが、コロナ禍の為開催できず悩んでいる間に、事務局スタッフが難病にかかり、私も足が不自由になってきました。そこで、事務局長は京都と大阪の学校の理事長なのでこの設立式に出席する。バスは現地まで行く。私が頑張れば、話し合える。四国には会員は少ないけれど、大阪には会員は多いし、前会長の広岡氏(宝塚教会)もいる。また大会をすることにすれば、大阪高松大司教区でよろしくお願ひしたいという思いからです。

十徳島地区
教会の皆さんと大型バスに乗りおでかけするのはこれまで機会がなく数日前から楽しみにしていました。移動中フィリピンの信者さんメンバーによるゲームや聖歌を歌いお天気は曇り空ではありましたがバスの中は晴天のような明るさで大阪カテドラル聖マリア大聖堂へ

十西讃ブロック
感動！新しい門出。
2023年10月9日、今、大阪高松大司教区の新しい門出。門出の舞台は、大阪カテドラル聖マリア大聖堂。大きい！広い！美しい！厳かに流れるパイプオルガンの響きと聖歌隊の歌声。門出にふさわしい大舞台です。新しい門出に集まったのは、大司教様、司教団、司祭団、そして千人を超える

信者、信者……。みんな笑顔。優しく見守るのは祭壇正面に描かれたロザリオの聖母。
今、大阪高松大司教区の新しい門出。トマス・アクィナス前田万葉大司教様の下に集う5万1千余人の信者。その一人一人に与えられた賜物。この賜物を大切に使い、愛の教えを広めよう！そして、主キリストのうちに大きく一つになろう！

午後1時、大阪高松大司教区設立式ミサが厳かに始まりました。ミサは肅々と進行し、最後に教区の保護者ロザリオの聖母が見守る中、『マリアさまのこころ』を合唱して閉祭しました。

引き続き大阪高松大司教区設立記念セレモニーが挙行されました。この中で、永年高松司教区を司牧されてきた諏訪榮治郎司教様に感謝の言葉と花束が贈呈されました。諏訪司教様は、弘法大師を引用してユーモア溢れる挨拶をされ、広いお心を示されました。そして、前田大司教様には、大司教座のお祝いの言葉と花束が贈呈されました。前田

大司教様は挨拶の中で、現在教会が直面する諸問題に言及され、信者の高齢化問題、若者の教会離れの問題、在日外国人信者との交流問題等々、鋭意取り組まれる事を宣言されました。最後に3人の若者から、輝かしい未来を予感させる次の俳句が贈られました。
『新教区 つなげて祈る
花冠り』
丸亀教会一信者



写真右の2列辺りに座りました。



7府県の旗を先頭に奉納



トマス・アクィナス前田万葉大阪高松大司教就任おめでとうございます。また諏訪司教様、イスマエル神父様大変お疲れ様でした。特に病をおして活動されている姿には心配も、心動かされました。

さて、10月9日スポーツの日。大阪での大阪高松大司教区設立式ミサ出席のため、朝7時半に丸亀教会に信者26名ドミニコ会スティーブン・アントニオ神父のメンバーでバスに乗り出発。その際西讃ブロックのプラカードを用意してくださいました。各人の胸には西讃ブロックの名札が掛かっています。大半が高齢者、太田さんは

感動の式典でした。酒井補佐司教が紹介されたアフリカのことわざ「一人で歩んだあとには一人の足跡が残る。みんな歩いて来たあとには道ができる。」は私たちにぴったり、これを忘れずた「おもしろい大阪高松」を作っていきたい。桜町教会信徒

東讃ブロックバスでの参加者



東讃ブロックバスでの参加者

カトリック幼稚園めぐり西讃ブロック・高知地区 神の愛に包まれて

今号は、西讃ブロックの観音寺聖母幼稚園、善通寺聖母幼稚園、丸亀聖母幼稚園と高知地区の高知聖母幼稚園を紹介いたします。

観音寺聖母幼稚園は、1957年(昭和32年)に設立し、3400名以上の卒業生を送り出してきました。

神父様のいるカトリック幼稚園として、地域の中で温かく受け入れられ、長年愛されています。子どもたちは登園後、神父様と手を繋ぎ、一緒に教会前のマリア様にお祈りしてから保育室へ入ります。神父様と一緒に過ごす子どもたちは、心優しく豊かに育っています。

また、先生たちも日々の祈りの中で、神様の愛をたくさんいただき、子どもたちに寄り添いながら、丁寧な保育をしています。異年齢でのかかわりも多く、園内はまるでひとつの家のようです。

近隣には海や山があり、年間を通して園外保育に出かけています。地域の人の厚意により、いちご狩りや芋ほり、稲刈りの体験の機会が多くあります。自然豊かな環境、神様からの恵みに感謝します。草花や小さな生き物と触れ合いながら、たくさんの発見に目をキラキラと輝かせる子どもたち。命の尊さにも気づいています。

今年度、夏休みに新しい総合遊具を設置いたしました。子どもたちのワクワクした姿が見えてきます。嬉しそうな笑顔がいっぱい、そんなことが起こるかな？

毎日ドキドキ、楽しみながら、これからもあたたかい素敵な観音寺聖母幼稚園であり続けたいと願っています。

善通寺聖母幼稚園は、弘法大師誕生の地、真言総本山善通寺のある穏やかな街にあり、善通寺市の中で唯一の私立幼稚園として、1961年に善通寺カトリック教会付属幼稚園として創立しました。最近では、園児だった方が保護者になり、行事と一緒に参加したりと楽しい時間を過ごしています。また、善通寺市外(5市町)からも通園していることは本園の特徴でもあります。



夏のお泊まり会にて

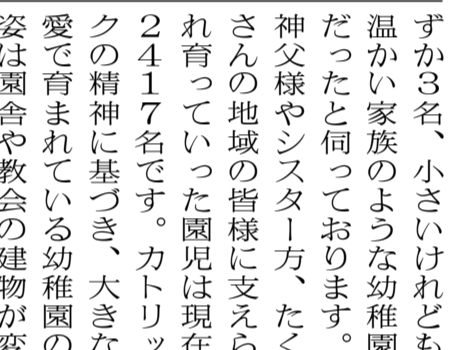


着し、それぞれの子どもがお互いに刺激をうけ、意欲や思いやりの気持ちを大切に持てるようになってきています。そして、毎週金曜日にはアントニオ神父さまが、「お祈り」や「神さまのお話」を通して、子どもたちに神さまが身近な存在であること、お家の方や保育者の温かな愛の中で育っている事、他の人を受け入れたり感謝する心が持てる力を身に付けられるようになら、保育を行ってまいります。

キリスト教の愛の精神を踏まえながら、子どもたち一人ひとりを大切に、その命と心の輝きが育つ環境を整えていきたいと思っております。

丸亀聖母幼稚園は、香川県の中讃地域にあり、市内には石垣の名城として知られる丸亀城や新日本百名山の一つでもある讃岐富士(飯野山)を眺められる市街地にスペイン外国宣教会の故トマス・オンダラ神父様によって1956年に開園されました。第一期生はわ

ずか3名、小さいけれども温かい家族のような幼稚園だったと伺っております。神父様やシスター方、たくさんの地域の皆様に支えられ育っていった園児は現在2417名です。カトリックの精神に基づき、大きな愛で育まれている幼稚園の姿は園舎や教会の建物が変わり60年以上経った現在も創立当初と変わらず大切に受け継がれています。



丸亀市市民体育館にて

ち教師もよりよい環境の一員となり日々研鑽し成長していきたく思っております。

高知聖母幼稚園は1953年(昭和28年)カトリック・オペレート会アメリカ管区の宣教師による、神様の愛を伝えるミッションの場として設立され、1983年(昭和58年)学校法人の星学園となりました。園舎は前に公園があり、自然豊かな保育環境となっております。

園はモンテッソーリ教育法を取り入れており、『子供たちは自ら成長、発達させる力をもって生まれてくる』周囲の者はその要求をくみ取り子供たちの自発的な援助をし、子供たちが生活した幼児教育を行うとともに、

新大司教区の新たなミッションへ。南かとは思いますが、力を合わせ乗り越えていける事と思えます。旧大阪教区の皆さん、どうかよろしくおねがいします。三本松教会 長町公司

高知聖母幼稚園は1953年(昭和28年)カトリック・オペレート会アメリカ管区の宣教師による、神様の愛を伝えるミッションの場として設立され、1983年(昭和58年)学校法人の星学園となりました。

高知聖母幼稚園

園舎は前に公園があり、自然豊かな保育環境となっております。



幼稚園園舎と玄関のマリア像

マリア・モンテッソーリに沿った人格形成を目指します。

- ◇目指す幼児像
・神と人と自然を大切にす
る子供
・思いやりと感謝の心を持つ子供
・明るく素直な心の子供
・自分で考え、自分で行動し、責任を持つ子供

- ◇教育の特色
・年齢別横割活動(運動・音楽・絵画・リトミック・茶道など)

◇環境
・子供たちを主体とした保育室
・園舎前の広い中島町公園グラウンドとして利用
・創立70年の歴史を持つ、木造保育室とホール

◇園長古川健一神父から
子供たち一人一人が、のびのびと自分らしく育っていく事を大切にしています。子供たちは神様とたくさんの人に愛されて、豊かな心で、健やかに成長していきます。



古川神父です

大司教区となり漠とした不安と共に安堵もしました。高齢化や統合などの課題が山積みです。今回の合併は、吸収ではなく、二つの教区の話し合いを基に大司教区が造られます。御旨に添う道が拓かれるようお願いいたします。

江ノ口教会 新谷真理子

大阪・高松大司教区発足ならびに前田大司教さまの着座にあたり、多くの教区民の皆様と共に喜びに満ちております。合区にあたり、いくらかの問題は起る

大司教区となり漠とした不安と共に安堵もしました。高齢化や統合などの課題が山積みです。今回の合併は、吸収ではなく、二つの教区の話し合いを基に大司教区が造られます。御旨に添う道が拓かれるようお願いいたします。

新大司教区の新たなミッションへ。南かとは思いますが、力を合わせ乗り越えていける事と思えます。旧大阪教区の皆さん、どうかよろしくおねがいします。三本松教会 長町公司

へくそんなことができるのかと驚き、大きなところと一緒にいければ将来大丈夫やなくと安心、教区の集まりは大阪です

八幡浜教会 清水裕子

大司教区となり漠とした不安と共に安堵もしました。高齢化や統合などの課題が山積みです。今回の合併は、吸収ではなく、二つの教区の話し合いを基に大司教区が造られます。御旨に添う道が拓かれるようお願いいたします。

大阪高松大司教区決定の知らせを受け、少子高齢化の時代なので仕方無いと考えております。以前から会計は大阪とつながっておりましたので、当然の事と受け止めております。安芸のミサは70歳女性が、今日大きな希望があります。これまでの恵みに感謝して、新しい仕組みの中で祈りながら歩んでいきたいと思えます。特に2つの事務所で働く方はじめ教区新設に携わる多くの人に力が与えられますように。

安芸礼拝所 山口 幹

大司教区となり漠とした不安と共に安堵もしました。高齢化や統合などの課題が山積みです。今回の合併は、吸収ではなく、二つの教区の話し合いを基に大司教区が造られます。御旨に添う道が拓かれるようお願いいたします。

新教区設立 信徒の感想

大司教区となり漠とした不安と共に安堵もしました。高齢化や統合などの課題が山積みです。今回の合併は、吸収ではなく、二つの教区の話し合いを基に大司教区が造られます。御旨に添う道が拓かれるようお願いいたします。

大司教区となり漠とした不安と共に安堵もしました。高齢化や統合などの課題が山積みです。今回の合併は、吸収ではなく、二つの教区の話し合いを基に大司教区が造られます。御旨に添う道が拓かれるようお願いいたします。

◇教区スケジュール◇

- 11月
- 1日(火) 諸聖人
- 2日(水) 死者の日
- 3日(木) 文化の日「死者のためのミサ」
- 5日(日) 年間第31主日
- 10日(金) 14:00司祭評議会 16:00顧問会
- 11日(土) 大阪高松大司教区設立感謝ミサ
- 12日(日) 年間第32主日
- 19日(日) 年間第33主日
貧しい人のための世界祈願日
聖書週間(26日まで)
- 23日(水) 勤労感謝の日
- 24日(金) 大阪高松プロジェクトチーム会議
- 26日(日) 王であるキリスト
- 30日(水) 聖アンデレ使徒
- 12月
- 3日(日) 待降節第1主日 宣教地召命促進の日
- 8日(金) 無原罪の聖マリア
- 10日(日) 待降節第2主日
- 17日(日) 待降節第3主日
- 24日(日) 待降節第4主日
- 25日(月) 主の降誕
- 27日(水) 聖ヨハネ使徒福音記者
- 31日(日) 聖家族

教誨事業功労者表彰式の様子(上下とも)



教誨師中央研修会に参加して
新たな被害者を生まぬために

8月30日～9月1日、法務省において、教誨師中央研修会に参加させて頂きました。この研修は、委任後の年数の浅い教誨師を対象に開講されており、全国規模のものでした。永年の教誨師の褒章の式典に始まり、最新の法制度と課題についてのレクチャーも受けました。その上で、教誨師の面会やクラスについての再現

様々な宗教の教誨師の方との分かち合いは、非常に興味深く大変刺激を受けました。また、一人の人間として誠実に受刑者の方と関わっていくことの大切さと、受刑者の更生のために教誨が一定の役割を果たしていることを、刑務所職員の方

一人の刑務官のお言葉が心に残りました。「教誨師の方は、加害者を支援している」という批判さえ受けることがあります。それでも新たな被害者を生まぬためにこそ受刑者と丹念に向き合い、諦めずに教誨活動を続けてください。」

からも伺い本当に励まされました。

最後に、封切前の映画「過去負う者」を鑑賞しました。内容については、詳細は御覧頂きたいのですが、犯罪被害者・加害者・支援者・その他の人々の思いや葛藤が凄惨な程に描かれておりました。鑑賞後随時解散となり、皆が考えさせられながら帰路につきました。完全な正解や解決はないかもしれませんが、それでも、個別具体的な人や物事に丁寧に向き合い続けることに尽きるという事を思わずにはいられません。

大阪高松カテドラル

四国にゆかりの石像

大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂(玉造教会)の正面には、高山右近、細川ガラシャの石像があるのをご存知でしょうか。実は、いずれも桜町教会信徒だった故ステファノ安部政義さんの作なのです。

新教区設立をきっかけに、石像のことについて大阪に問い合わせたところ、大阪の事務局では設置の経緯等を把握しておられず、政義さんのご子息である安部重竹さん(桜町教会)も詳細はご存じなかったのですが、故フランシスコ・ザベリオ田中英吉師が高松教区の司教になる前に作られたようだとのお話でした。

桜町教会 長谷川聖



死者のためのミサ

11月3日死者の日の翌日、桜町教会聖堂で死者のためのミサが行われ、30人ほどが参加した。ミサ後には、



上：聖堂でのミサ、下：地下納骨堂での祝福

教区報215号の訂正
5ページ教区統計「4、教区内組織」に「子供と女性をまもる会」「日本カトリック医師会」「日本カトリック看護協会」の記載漏れがありました。訂正してお詫びいたします。

2024年4月から教区報が新しくスタートするのにあわせて

新教区報ロゴ大募集!!

募集内容

- ・新教区報「カトリック大阪高松大司教区報」1面に使用するにふさわしい教区報名称ロゴのデザイン原案

デザインの条件

- ・「大阪」「高松」「教区報」の3語を含むこと
- ・未発表のオリジナル作品であること
- ・印刷寸法が縦78mm×横24mmなので、この比率で作成すること(枠線部も含む)
- ・作品内で使用するフォントは、商標への使用及び商標登録が可能なものであること
- ・カラー・モノクロいずれも可

応募資格

- ・大阪高松大司教区に所属する信徒(含む聖職者・修道者)と教区内の学校や施設の生徒・入所者・職員

応募方法(下のQRコードから送信できます)

- ・大阪高松大司教区報西部版窓口(takamatsu.koho@gmail.com)に、デジタルデータ(PDFまたはJPG)によりデザインを送信すること
- ・メール本文に、①氏名(応募者が未成年の場合は保護者氏名も)、②住所、③年齢、④所属教会(学校、施設)、⑤連絡先電話番号を記載すること

応募締切

- ・2023年12月31日(日)午後5時メール必着のこと

審査方法

- ・前田万葉大司教・広報担当者により1作品を選定する。



教区社用車寄贈のお願い

---募集内容---

- ・車種・・・小型自動車・普通車「3ナンバー車を除く」
- ・走行距離・・・10万キロ以下

皆さまお持ちのお車のうち、提供可能なお車ございましたら、是非寄付に関してご検討をいただければ幸いです。

お問合せ先：087-831-6659 教区本部事務局